

## (2) みどりの将来像

### ○百年の杜将来イメージ

奥羽山脈や泉ヶ岳などの奥山のみどりは澄んだ空気と水を生み出し、生き物を育みます

斉勝沼緑地や水の森公園などの里山のみどりは人々を招き入れ、自然とまちをつなぎます

青葉の森緑地や岩切緑地などの市街地のみどりは人々を包み、居心地の良い空間で人のつながりが生まれます

定禅寺通や勾当台公園などの都心のみどりが人を守り、人に活力を与え、まちのにぎわいを創ります

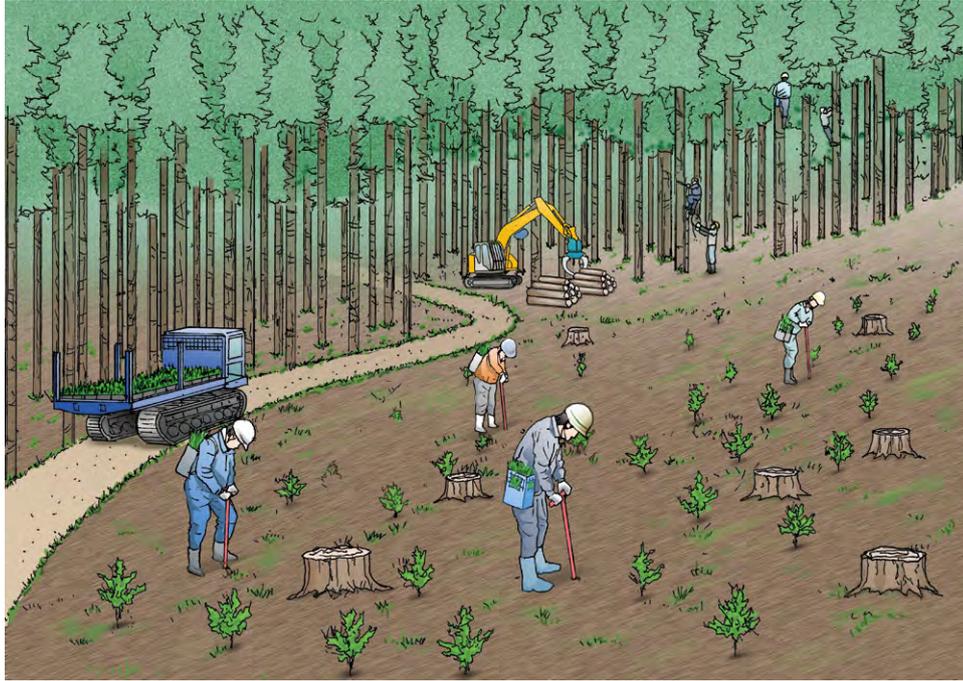


広瀬川や七北田川などの河川のみどりはもり、まち、うみをつなぎ、そこに人々が集います

東部地域などに広がる田園のみどりは歴史的景観を留め、海からの風を招き入れます

海岸公園などの海岸のみどりが再生し再び市民の生活を支え、新たなにぎわいが生まれます

## 奥山



原始的な環境を有する樹林地の保全や人工林の適切な管理に取組み、生物多様性の確保、健全な水循環、二酸化炭素の吸収や持続可能な木材供給などを実現します。

## 里山



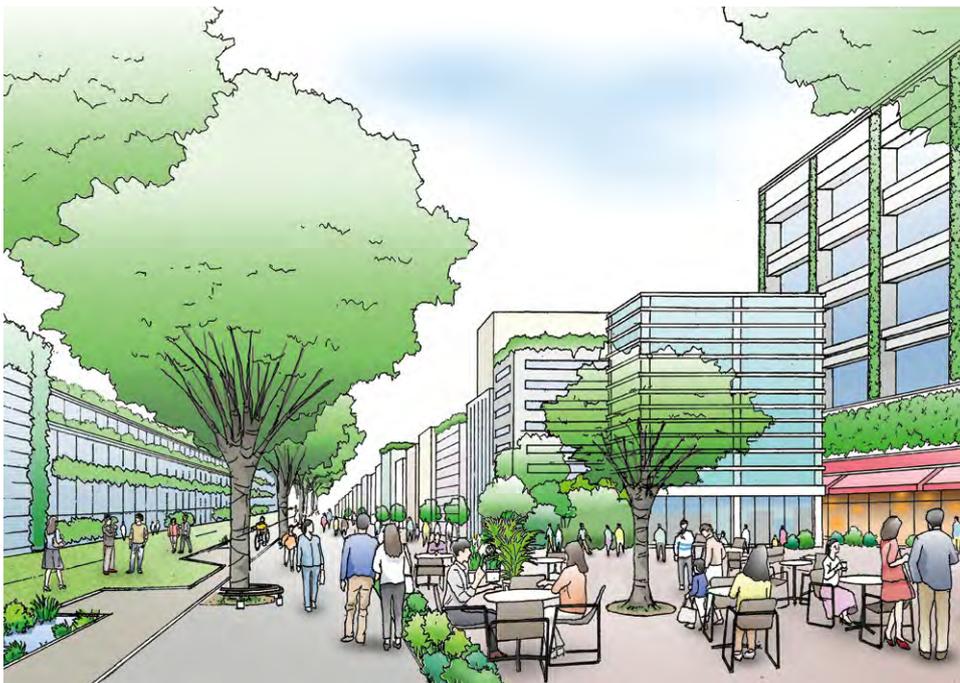
良好な自然環境の維持に取組むとともに、キャンプや環境教育など市民が様々な利用する場となることを目指します。

## 市街地（都心以外）



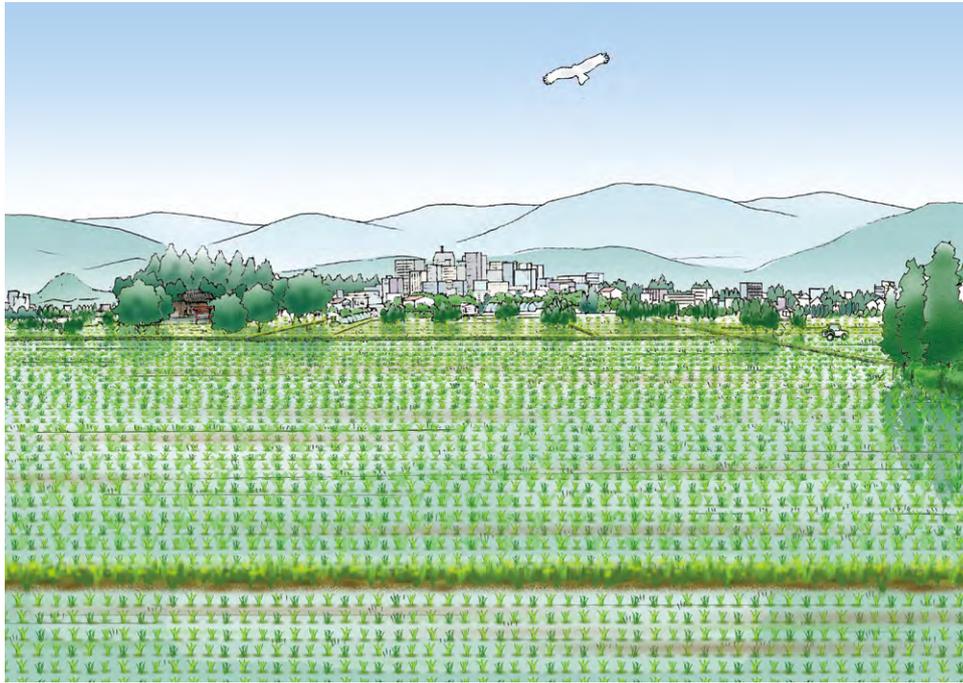
多様な主体と連携した公園整備，管理運営に取組み，子どもの遊びやテレワーク，地域の花壇づくりなど，生活スタイルに合わせ公園が利用されるまちを目指します。

## 都心



建築物緑化や街路樹，公園などのみどりの充実と利活用に取組み，美しく活気ある都市空間を目指します。

## 田園



農地の適正な保全に取り組み、生物多様性の保全、地域固有の景観の維持、健全な水循環、ヒートアイランド現象の緩和などを実現します。

## 海岸



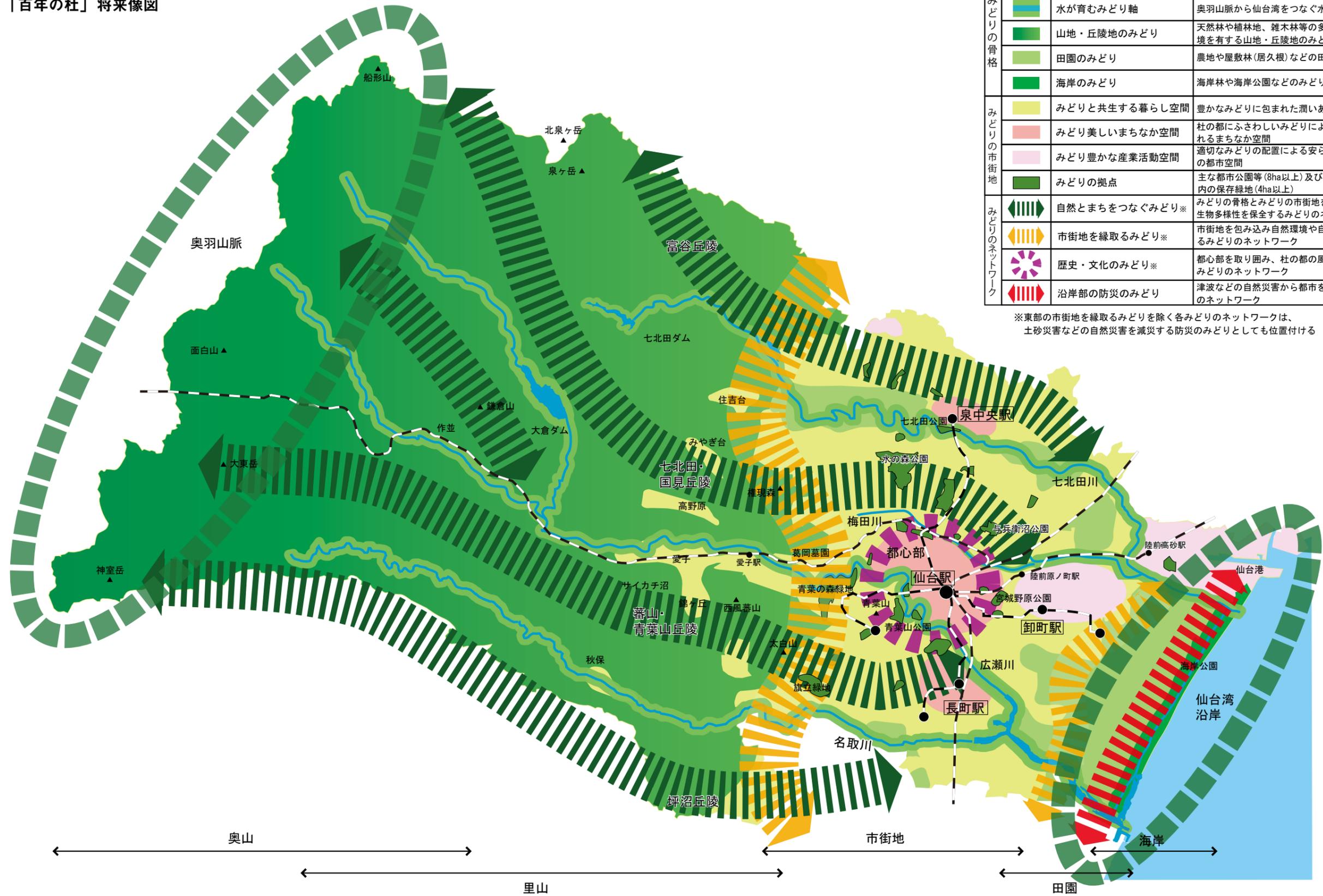
農業体験等の集団移転跡地の利活用や、市民協働による海岸防災林の再生を進めることで、防災・減災機能を高めながら、東部エリアのにぎわい、活性化を目指します。

## 河川



河岸段丘の景観と生物多様性を保全しながら親水空間の利活用に取り組むことで、仙台の都市個性としての価値を高めながら、市民に近い河川空間を目指します。

○「百年の杜」将来像図



凡 例		概 要	
みどりの骨格		みどりの核	豊かな自然環境を有する奥羽山脈のみどりと仙台湾のみどりと
		水が育むみどり軸	奥羽山脈から仙台湾をつなぐ水の軸
		山地・丘陵地のみどり	天然林や植林地、雑木林等の多様な自然環境を有する山地・丘陵地のみどり
		田園のみどり	農地や屋敷林(居久根)などの田園のみどり
		海岸のみどり	海岸林や海岸公園などのみどり
みどりの市街地		みどりと共生する暮らし空間	豊かなみどりに包まれた潤いある生活空間
		みどり美しいまちなか空間	社の都にふさわしいみどりによる魅力あふれるまちなか空間
		みどり豊かな産業活動空間	適切なみどりの配置による安らぎと賑わいの都市空間
		みどりの拠点	主な都市公園等(8ha以上)及び市街化区域内の保存緑地(4ha以上)
みどりのネットワーク		自然とまちをつなぐみどり※	みどりの骨格とみどりの市街地をつなぎ、生物多様性を保全するみどりのネットワーク
		市街地を縁取るみどり※	市街地を包み込み自然環境や自然景観を守るみどりのネットワーク
		歴史・文化のみどり※	都心部を取り囲み、杜の都の風格を与えるみどりのネットワーク
		沿岸部の防災のみどり	津波などの自然災害から都市を守るみどりのネットワーク

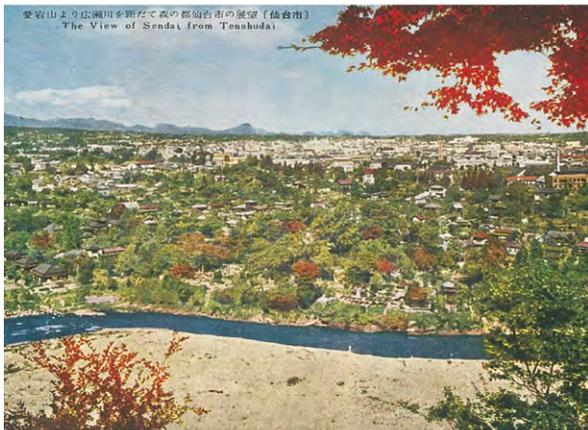
※東部の市街地を縁取るみどりを除く各みどりのネットワークは、土砂災害などの自然災害を減災する防災のみどりとしても位置付ける

## コラム 「杜の都」 のいわれ



かつての屋敷林（居久根）のイメージ

みなさんは、仙台が「杜の都」と言われているのを知っていますか？今から約400年前の江戸時代、仙台藩祖伊達政宗公は、家臣たちに、屋敷内には飢餓に備えて、栗・梅・柿などの実のなる木や竹を、また、隣との境に杉を植えるように奨めました。こうしてできた屋敷林（居久根）と、お寺や神社の林、そして広瀬川の河畔や青葉山のみどりが一体となって、仙台はまち全体がみどりに包まれていました。



緑ゆたかな仙台  
(戦前の絵はがきより)



空襲で焼け野原となった仙台  
(昭和20年)

資料提供：仙台市戦災復興記念館

この「まち全体がみどりに包まれる姿」は、明治42年（1909年）には、「森の都」として仙台の観光案内書に記されています。また、昭和に入って間もない頃には、「杜の都」と呼ばれるようになったと言われ、この姿は、昭和20年（1945年）の仙台空襲前まで残っていました。「杜の都」の「杜」は、山などに自然に生えている樹木や草花だけではなく、そのまちに暮らす人々が協力し合い、長い年月をかけて育ててきた豊かなみどりのことです。「杜の都」と表すところに、「神社や寺、屋敷のまわりを取り囲んでいる『みどり』、人々がていねいに手入れをしてきた『みどり』こそが仙台の宝」という市民の想いが込められています。

仙台空襲で、まちのみどりは焼失してしまいましたが、その後の復興により、「杜の都」を印象づけるみどりは、青葉通や定禅寺通などの街路樹や、青葉山公園や西公園などのみどりに代わっていくこととなります。

○百年の杜将来イメージ・「百年の杜」将来像図の重ね図



第一章

基本理念・みどりの将来像・取組みの姿勢



みどりの核



歴史・文化のみどり



自然とまちをつなぐみどり



市街地を縁取るみどり



沿岸部の防災のみどり

## 3

## 取組みの姿勢

## (1) グリーンインフラの推進

## グリーンインフラと杜の都のみどり

「グリーンインフラ」は、自然環境が有する機能を社会における様々な課題解決に活用する考え方として、1990年代後半から欧米を中心に展開されてきました。我が国では、平成27年(2015年)に「国土形成計画」に位置付けられ、令和元年(2019年)には国土交通省からグリーンインフラ推進戦略が示されました(1)(2)④グリーンインフラ推進戦略(P.17,18)参照)。様々な分野で取組みが進むグリーンインフラですが、その手法、取組みの対象は多様であり、捉え方にも幅があります。仙台市基本計画ではグリーンインフラを「コンクリート等の人工構造物による従来型の都市基盤(グレーインフラ)に対して、良好な景観形成やヒートアイランド現象の緩和、水害リスクの低減など、自然環境が持つ多様な機能に着目し、それを都市基盤として活用するという考え方(取組み)」と捉えています。これからはグレーインフラとグリーンインフラが相互に補完しあうとともに、グリーンインフラを横串とすることで、みどりにより、防災、環境、健康などの様々な分野での都市の機能をより高めていく施策を展開することが求められます。

本市は、仙台藩初代藩主伊達政宗公が、家臣の屋敷内に食料・燃料となる樹木の植栽を奨励したことで、城下に豊かな屋敷林が育ち、杜の都と呼ばれるようになりました。屋敷林の多くは第二次世界大戦の戦火により失われましたが、戦災復興で生み出された都市公園のみどりや定禅寺通、青葉通に植栽されたケヤキ並木が大きく成長し、現在の「杜の都・仙台」を象徴するみどりとなっています。東日本大震災では、壊滅的な被害を受けた海岸林を津波防災の多重防御システムとして再生するために、市民や企業などとの協働により、植樹や育樹に取組んできました。今日に至るまで、本市ではみどりを日々の暮らしやまちづくりに欠かすことができないものとして大切に手入れを行いながら、その多様な機能を利活用してきた歴史があり、長い時間をかけて「グリーンインフラ」によるまちづくりに取組んできたと言えます。

## これからのまちづくりにおけるグリーンインフラ

本計画では、これらの取組みに加え、令和2年(2020年)世界的に大流行した新型コロナウイルス感染症による人々の行動様式の変化など将来起こり得る予見できない社会状況にも備えながら、就労環境や住環境の向上、子育てや教育、コミュニティ形成への寄与による人づくりなど、多岐にわたるグリーンインフラの効果に着目した持続可能で魅力あるまちづくりに取組んでいきます。

本市は、一級河川名取川及びその支流広瀬川と二級河川七北田川のそれぞれの源流から河口までを一つの行政区域に含み、奥山から里山、市街地のみどり、東部の農地、海岸林、河川が連続して、防災、環境、レクリエーションなど様々な役割を果たしています。本計画の推進にあたっては、本市が持つこれら豊かなみどりの多様な機能を積極的に活用していきます。

奥山・里山では樹林地の保全により、水害の軽減、水源・地下水の涵養、生物多様性の保全を推

進みます。青葉区大倉の青下水源地では、事業者がボランティアで樹林地管理に参加することで、さらにコミュニティの形成や健康増進などの効果の発現が期待されます。

市街地においては、都市公園や街路樹など身近なみどりを都市経営の資源として捉え、長期的な視点に立った計画的な整備や維持管理を行うみどりのマネジメントに取組みます。

さらに都心部では建築物の更新時などの機会を捉え、景観や環境、憩いなど様々な機能を発揮する質の高い緑化の誘導を図り、美しく活気ある都市空間をつくります。

田園・海岸は、冷涼な海風を内陸に流入させて市街地のヒートアイランド現象を緩和するほか、海岸林は津波被害を軽減する多重防御として機能します。

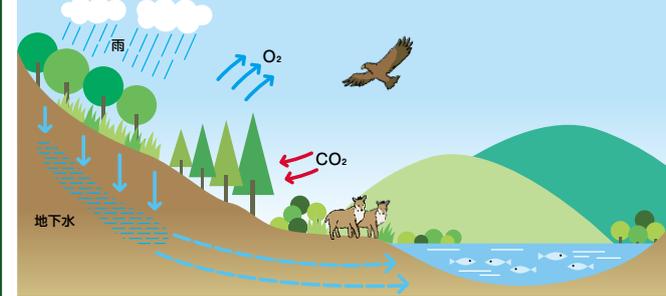
河川はこれらのみどりを水、風、景観で繋いでおり、都心部を流れる広瀬川においては、中流域特有の自然崖が残る環境を生かし、生物多様性の保全に努めるほか、青葉山周辺では仙台を代表するエリアとして親水空間の利活用に取り組みます。

また、事業の実施にあたっては、グリーンインフラとの親和性が高い参加型の取組みを進めることで、様々な分野での効果を高めるとともに、市民一人ひとりが、都市基盤を自分自身の生活と結び付け、そのあり方を考える社会への変化を促します。

基本理念「百年の杜づくりで実現する新たな杜の都～みどりを育むひと、みどりが育むまちと暮らし～」を実現すべく、関連する行政分野が連携を強めるとともに、連携分野を広げることで、市民や事業者などの多様な主体との協働のもと、グリーンインフラを推進していきます。

## (2) 杜の都のグリーンインフラ

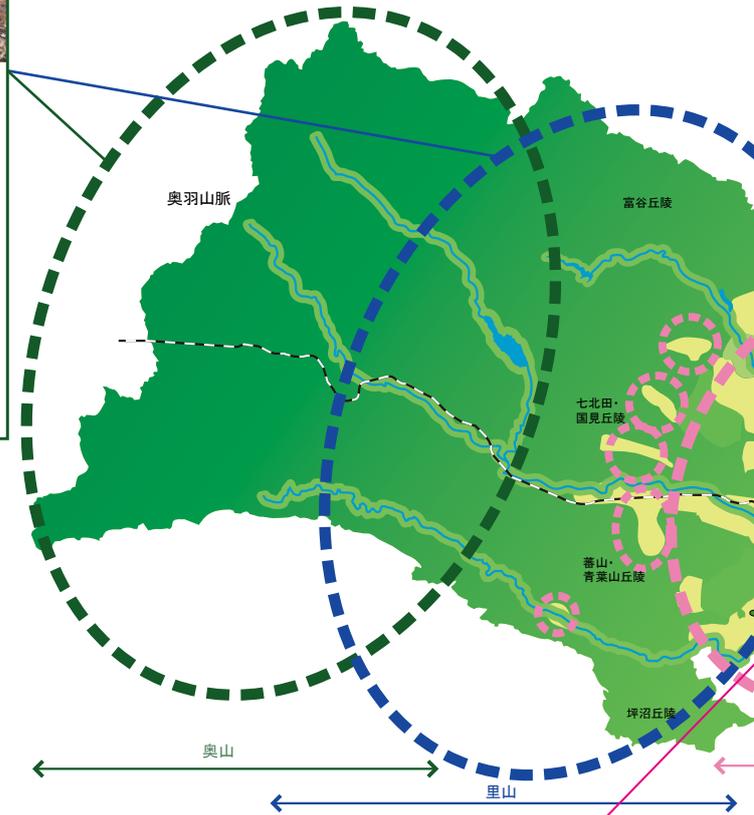
### 奥山・里山



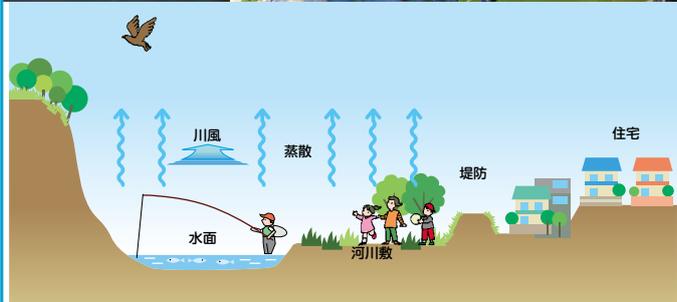
樹林を保全し適正に管理することで、生物多様性の保全、CO2吸収、水質浄化、水源の涵養等の機能を発揮します。

凡 例

	山地・丘陵地のみどり
	田園のみどり
	水が育むみどり軸
	みどりの市街地
	海岸のみどり
	みどりの拠点

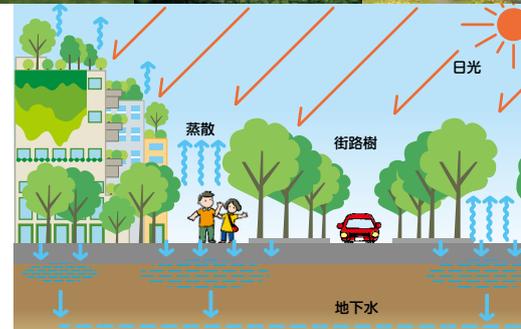


### 河川



河川の基本的な機能である治水、利水に加え、生物多様性の確保、微気象緩和、景観の保全等の環境機能を発揮します。また、河川敷の利活用によりレクリエーションやコミュニティ形成に寄与します。

### 市街地（都心部）

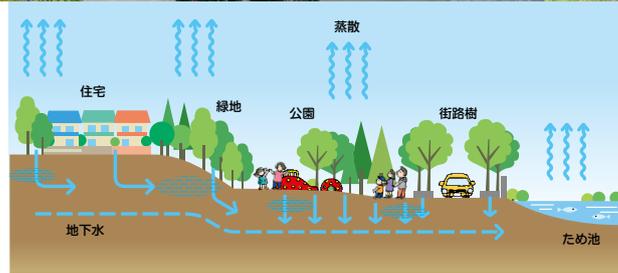


みどりの計画的配置やグリーンビルディングの整備促進により、暑熱緩和、景観の向上、レクリエーション等の機能。水の浸透・貯留機能を高めることにより、水害の軽減、に寄与します。

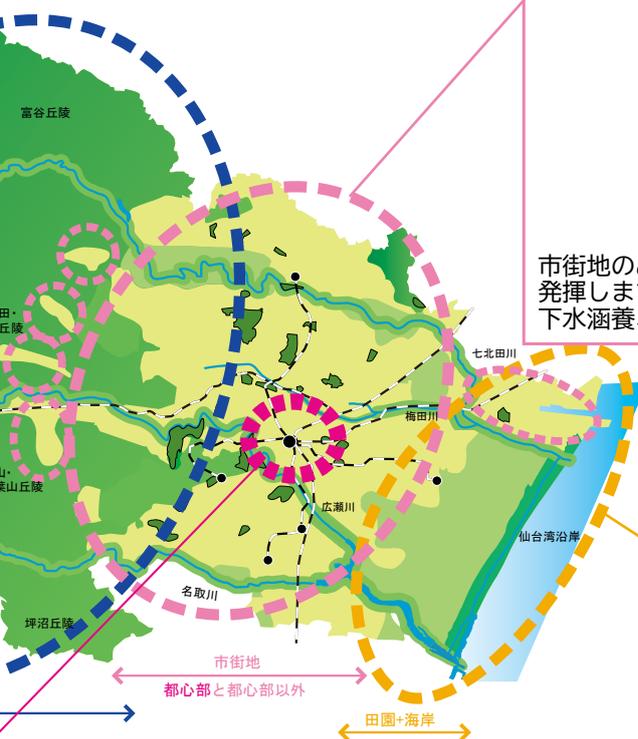
仙台は、森林や里地里山、市街地のみどり、東部の農地、源流から河口に至る河川など、市域に多様な自然が繋がりを有って分布している稀有な都市です。

これらの骨格となる多様なみどりは、水害の軽減、水源・地下水涵養、水質浄化、利水、微気象の緩和などの様々な役割を果たしています。

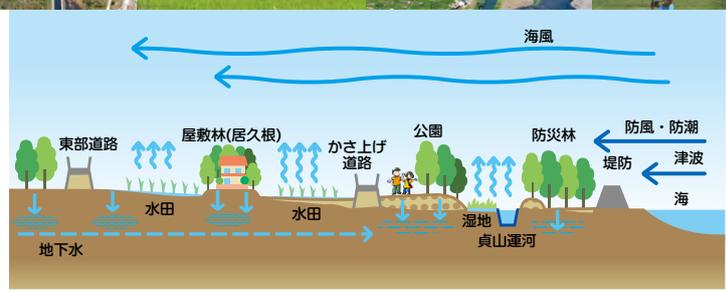
市街地（都心部以外）



市街地のみどりは景観の向上、レクリエーション、コミュニティ形成等の機能を発揮します。また、雨水の浸透・貯留機能を高めることにより、水害の軽減、地下水涵養、水質浄化等に寄与します。

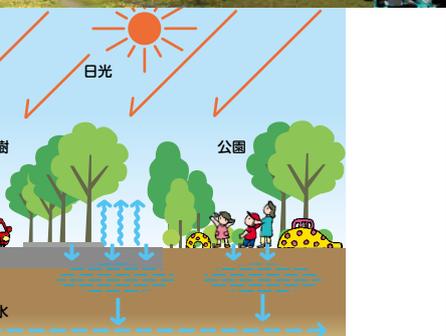


田園・海岸



夏季の冷たい海風は東部の平坦な地形を通過して内陸まで届き、市街地の温度の上昇を緩和しています。

沿岸部の防災林は防潮・防風機能を確保し、防潮堤やかさ上げ道路等による津波被害を軽減する多重防御の機能を高めます。農地、湿地、屋敷林や樹林地の保全により生物多様性確保、地域固有の景観保全に寄与します。



公園の整備促進に伴う緑化推進等によるレクリエーション等の機能を発揮します。また、雨水の浸透・貯留機能を高めることにより、水害の軽減、地下水涵養、水質浄化等に寄与します。

